

在宅患者、いつでも安心

在宅医療患者の脈拍データをリストバンド型医療機器で24時間把握し、医師らが急変時のアラートや患者の呼び出しに迅速に対応する管理システム「いつでもウォッチ」の運用が、県内や関東圏の一部医療機関などで8月から始まる。システムを考案した羽島郡医師会長の松波英寿・松波総合病院理事長は「在宅医療を受ける患者や家族だけでなく、医療従事者の安心にもつながる」と意義を語る。

同システムは、トーカイ(岐阜市若宮町)が大手電子部品メーカーTDK(東京都)と共同開発し、4月に医療機器認証を取得したウェアラブル機器「iAide(アイエイド)」を活用。装着した患者の脈拍数を常時測定し、リアルタイムで主治医のパソコンや患者家族の携帯電話などにデータを発信する。

医師は患者情報を一瞥で把握し、異常値や脈拍数の停止が検知されたり、患者が機器の呼び出しボタンを押したりすると音声アラートが鳴り、消防署や訪問看護ステーションなどに対応

リストバンド型機器で脈拍データ発信

羽島郡医師会が導入へ



新たな在宅患者管理システムで使用するリストバンド型医療機器「iAide」を紹介する松波英寿理事長(左)と小野木孝二社長＝22日午前、羽島郡笠松町田代、松波総合病院

を要請する。

機器は防水性で、1時間の充電で10日間ほど利用でき、付属する携帯型の受信機を含め月額3千～4千円程度でレンタルできる。

医療費削減に向け、政府は入院患者向け病床の削減を各都道府県に求めており、在宅医療の推進は今後さらに加速する。

松波理事長は22日、トーカイの小野木孝二社長と同病院で会

見し「自宅に病棟と同じような機能を持たせ、地域全体を療養病床化できる世界でも先駆的な取り組み」と強調。同郡医師会で8月下旬の導入を予定する。

小野木社長は「病気の早期発見による健康寿命の延伸や遠隔地のオンライン医療の質向上に貢献したい」と語る。当初は1千～2千台の導入を見込み、医療機関や各医師会を通じて全国に展開する。(亀山大樹)